

2018年度 学修成果（学士力）の検証 （1. 全学の推移）

FD委員会・IRセンター

調査実施期間 2018年5月1日～2019年1月31日（保健看護学科は2月までの集計）

回答者数 1385名

	人数	%
入学時	1108	77.1
卒業時	277	19.6

%は当該期間中に入学および卒業を迎える各学生数における割合

設問

4つの大きなカテゴリの下に、3つから7つの小設問が用意されている。

◆『知識・理解』のカテゴリ

「多文化・異文化」「人類の文化・社会と自然」「社会や人生」「自律・自立した学習」、

◆『汎用的技能』のカテゴリ

「傾聴力・表現力」「コミュニケーション」「レポート作成」「表・グラフの活用」「ICTを利用した情報収集」「ICTを利用したプレゼンテーション」「多角的・論理的分析」

◆『態度・志向性』のカテゴリ

「自律的な行動」「協調性」「モラル」「社会貢献」「キャリア形成」

◆『総合的学習』のカテゴリ

「学士力の総合的活用」「視野の拡大」「問題解決の過程」

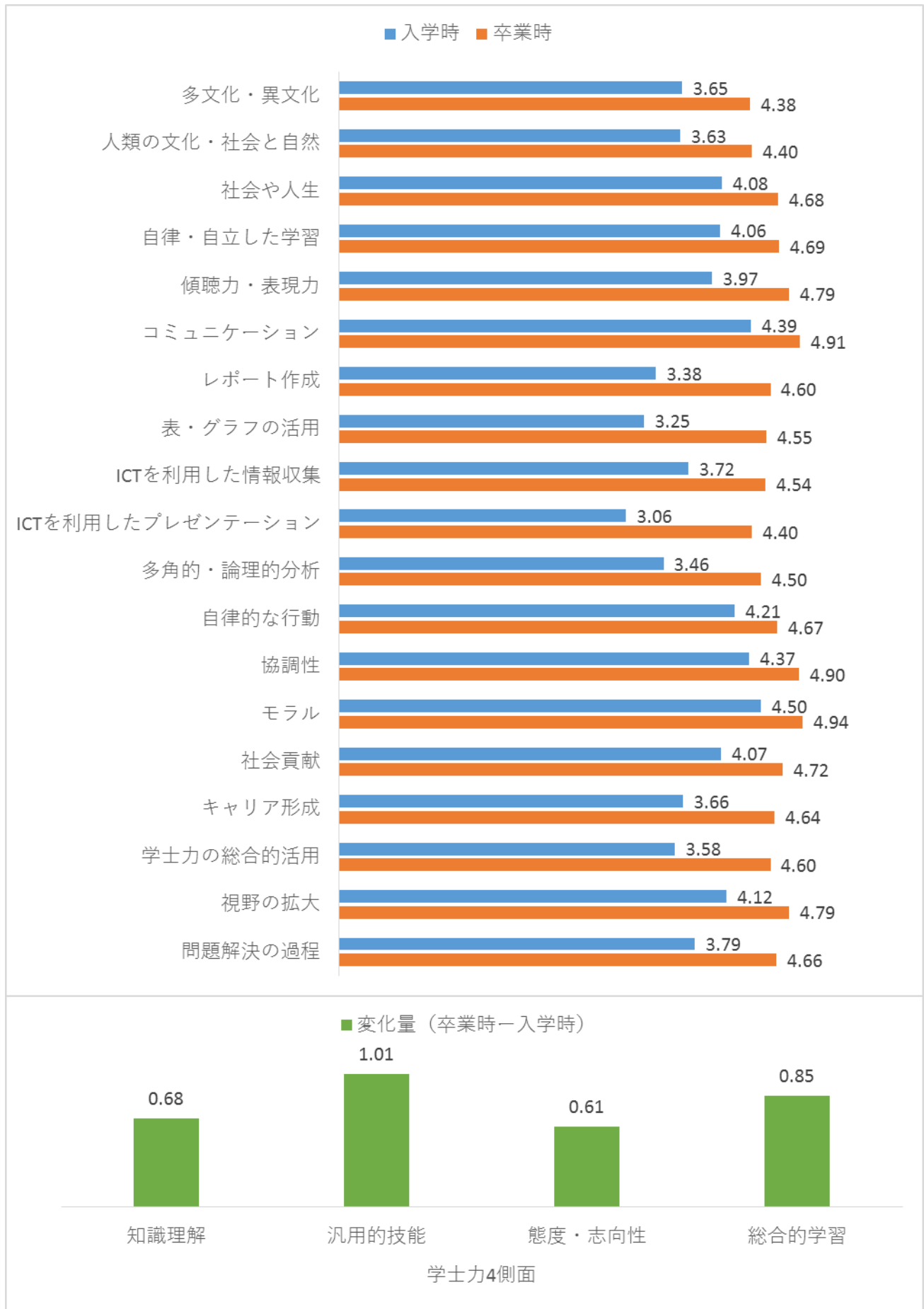
それぞれの設問に対し、「全くそう思わない」「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」までの6件法を用いて、自己の到達度に関する主観的評定を求めた。

分析方法

「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの6件法について、それぞれ1点から6点を割り当て、その平均点をもって小設問の得点とした。

また、卒業時から入学時の値を引いたものを変化量とした。

全学の比較



結果

全カテゴリ、下位設問で、入学時より卒業時の得点が高くなっている。

変化量の大きかったカテゴリは『汎用的技能』であり、汎用的技能では「ICTを活用したプレゼンテーション能力」(変化量:1.34)「表・グラフの活用」(変化量:1.30)「レポート作成」(変化量:1.22)「多角的・論理的分析」(変化量:1.04)の伸びが大きかった。『総合的学習』では「学士力の総合的活用」(変化量:1.02)の項目で1以上の伸びがみられた。

まとめ

全ての項目で、入学時より卒業時において到達度の主観評定が高くなっており、学士力に関しては一定の教育効果があったと考えられる。中でも汎用的技能が伸びている。

2018年度 学修成果（学士力）の検証 （2. 学科別推移）

FD委員会・IRセンター

調査実施期間 2015年5月1日～2019年1月31日（保健看護学科は2月までの集計）

回答者数 1385名

設問

4つの大きなカテゴリの下に、3つから7つの小設問が用意されている。

◆『知識・理解』のカテゴリ

「多文化・異文化」「人類の文化・社会と自然」「社会や人生」「自律・自立した学習」、

◆『汎用的技能』のカテゴリ

「傾聴力・表現力」「コミュニケーション」「レポート作成」「表・グラフの活用」「ICTを利用した情報収集」「ICTを利用したプレゼンテーション」「多角的・論理的分析」

◆『態度・志向性』のカテゴリ

「自律的な行動」「協調性」「モラル」「社会貢献」「キャリア形成」

◆『総合的学習』のカテゴリ

「学士力の総合的活用」「視野の拡大」「問題解決の過程」

学科別	入学時	4年終了時	合計
教育学科	175	42	217
福祉行政学科	101	9	110
福祉心理学科	103	39	142
社会福祉学科	383	33	416
医療経営管理学科	66	36	102
保健看護学科	61	26	87
リハビリテーション学科	79	73	152
産業福祉マネジメント学科	81	2	83
情報福祉マネジメント学科	59	17	76
学部別	入学時	4年終了時	合計
教育学部	175	42	217
総合福祉学部	587	81	668
健康科学部	206	153	359
総合マネジメント学部	140	19	159
	1108	277	1385

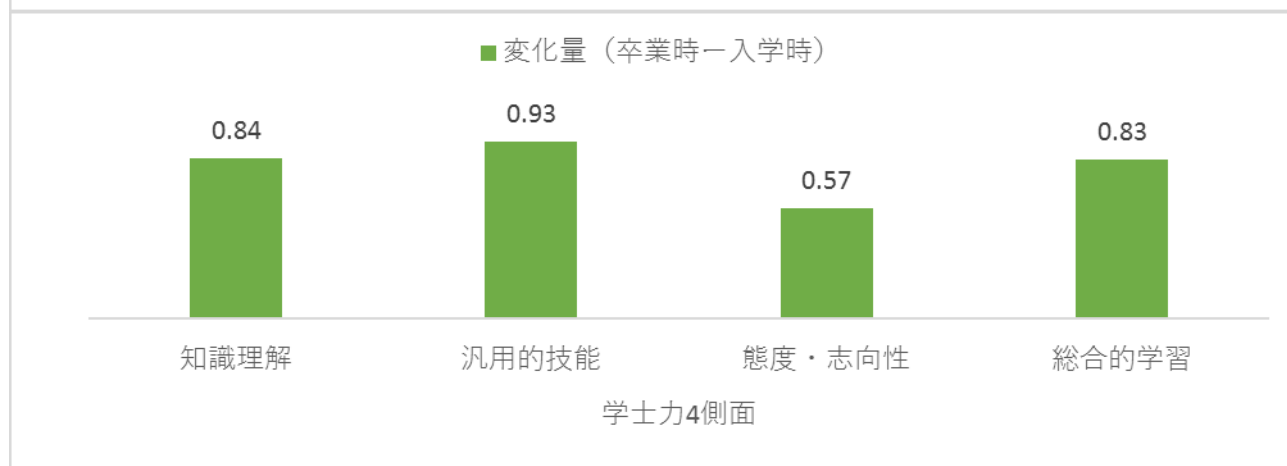
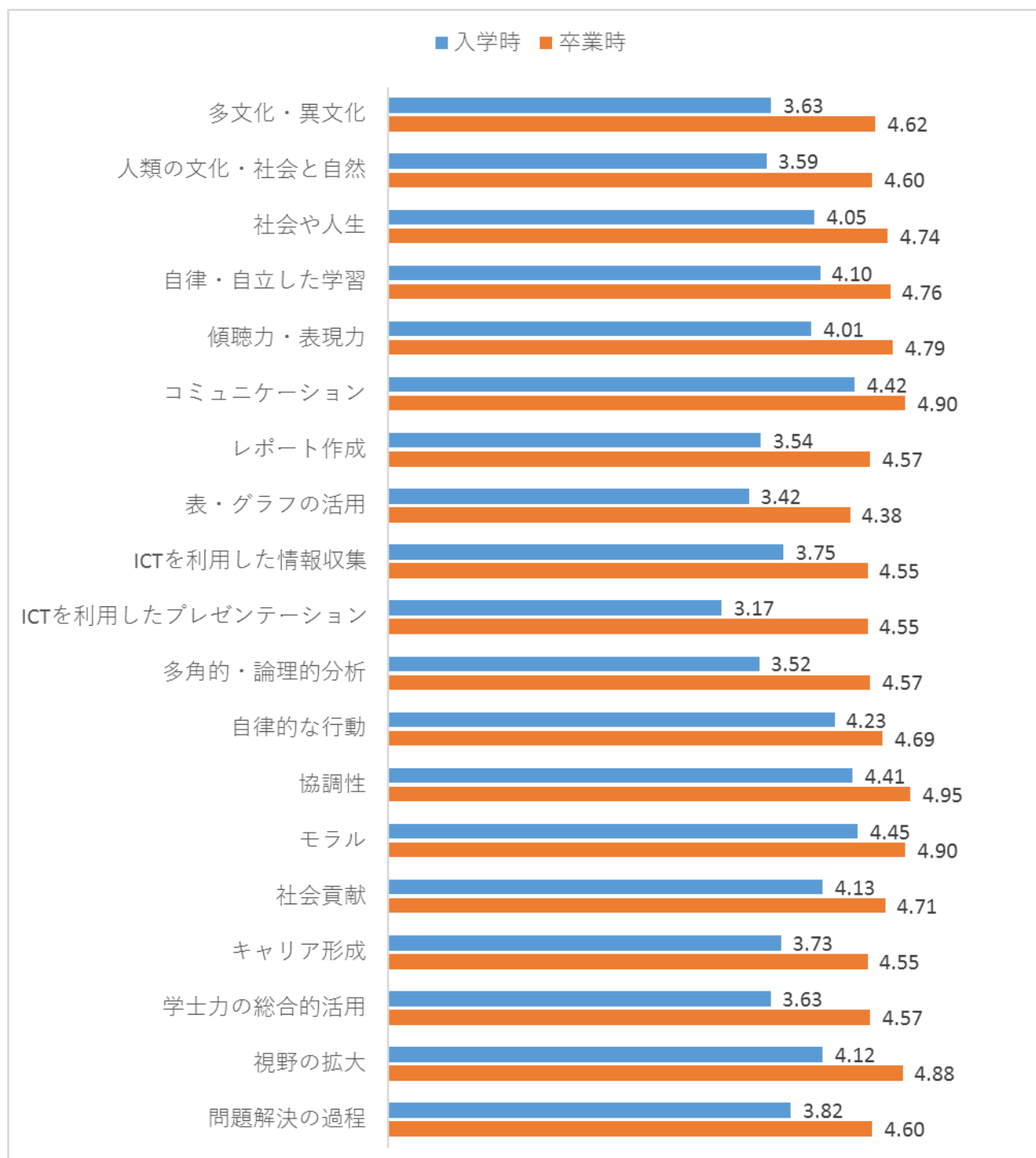
それぞれの設問に対し、「全くそう思わない」「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」「非常にそう思う」までの6件法を用いて、自己の到達度に関する主観的評定を求めた。

分析方法

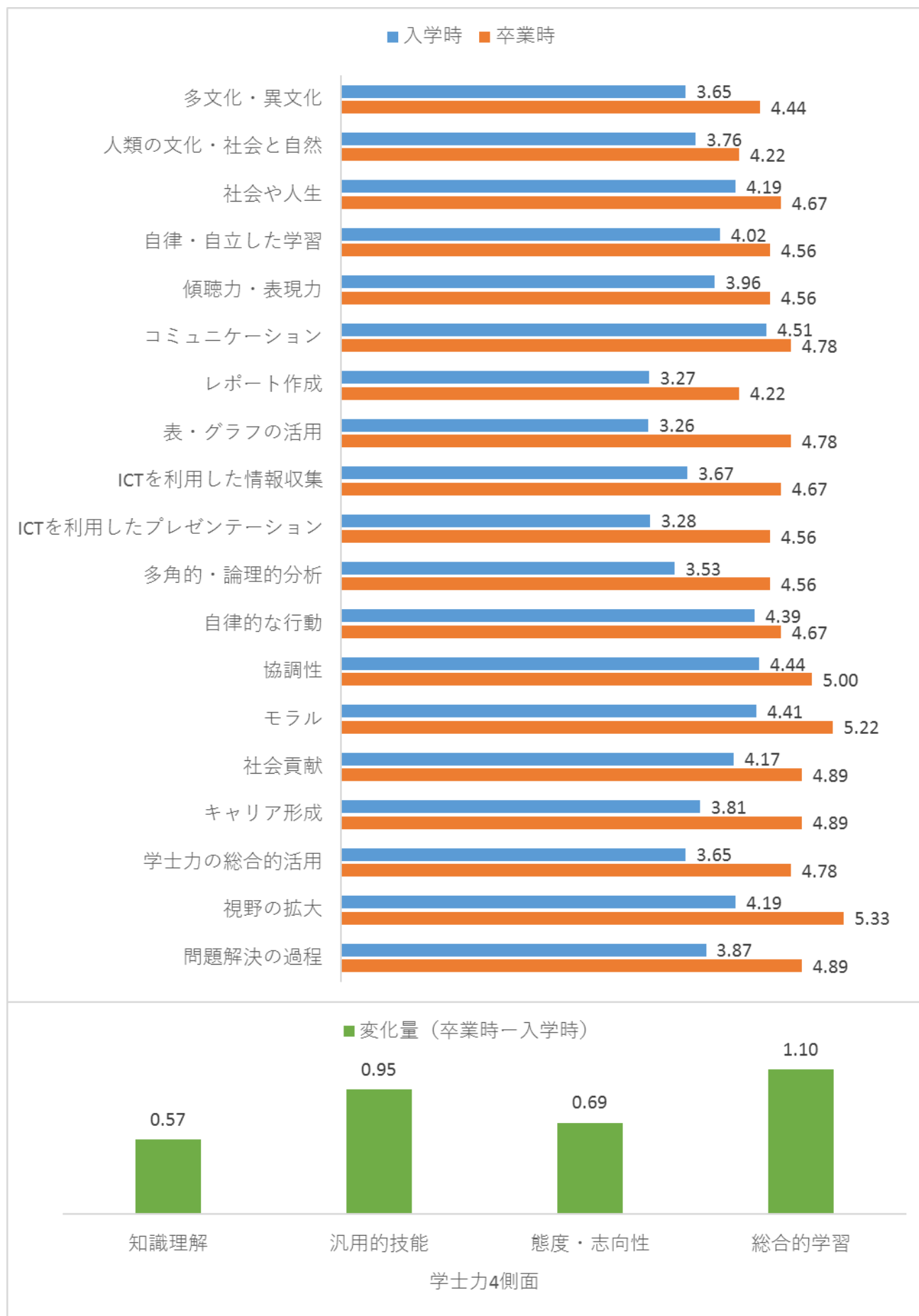
「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの6件法について、それぞれ1点から6点を割り当て、その平均点をもって小設問の得点とした。

また、卒業時から入学時の値を引いたものを変化量とした。

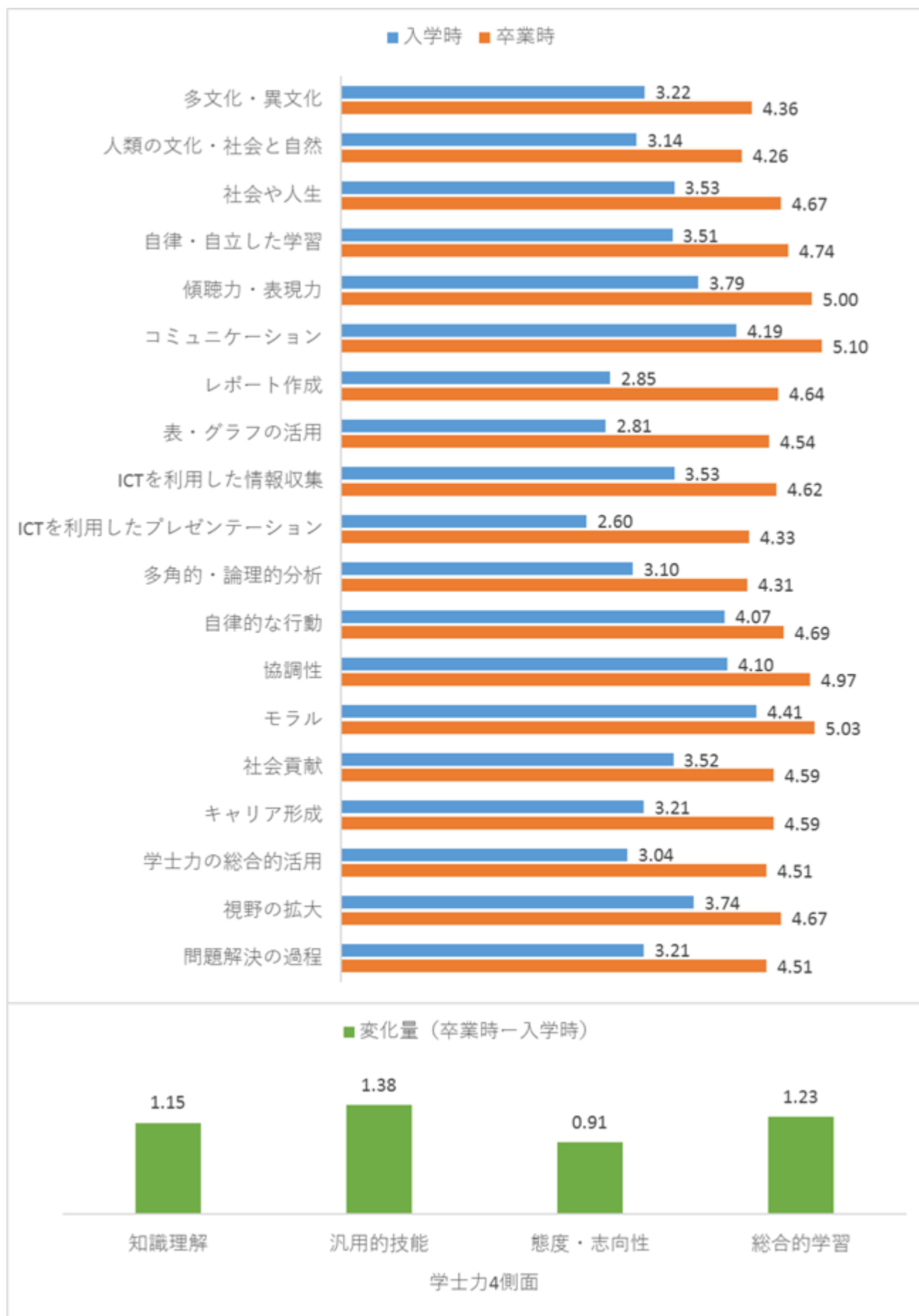
学科別の結果 【教育学科：入学時=175／卒業時=42】



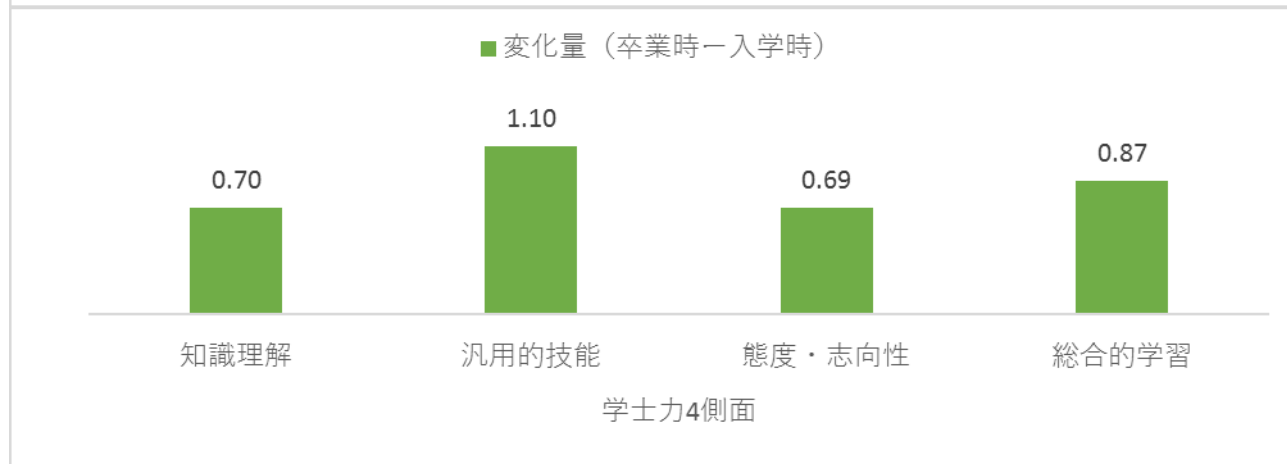
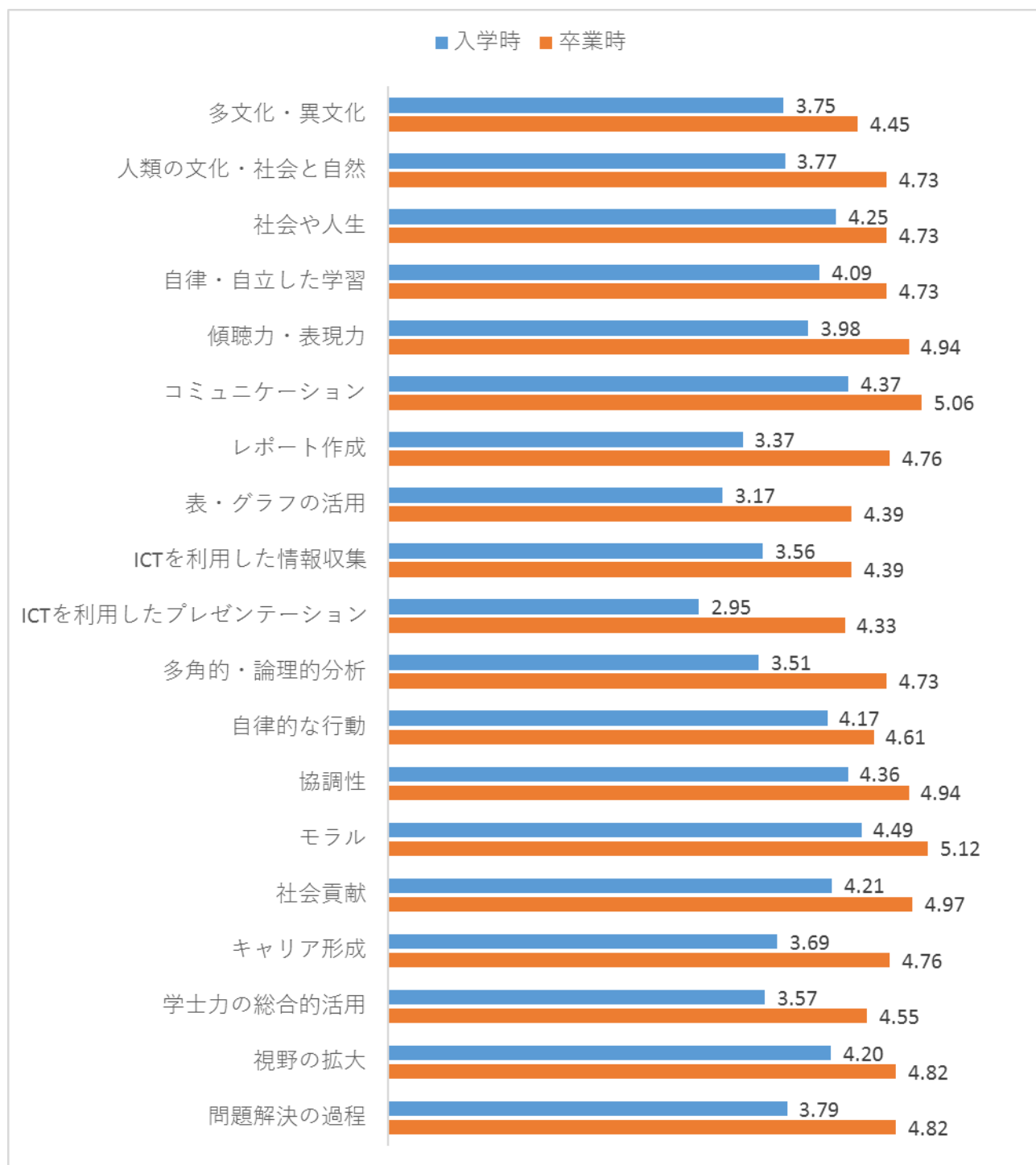
学科別の結果 [福祉行政学科：入学時=101/卒業時=9]



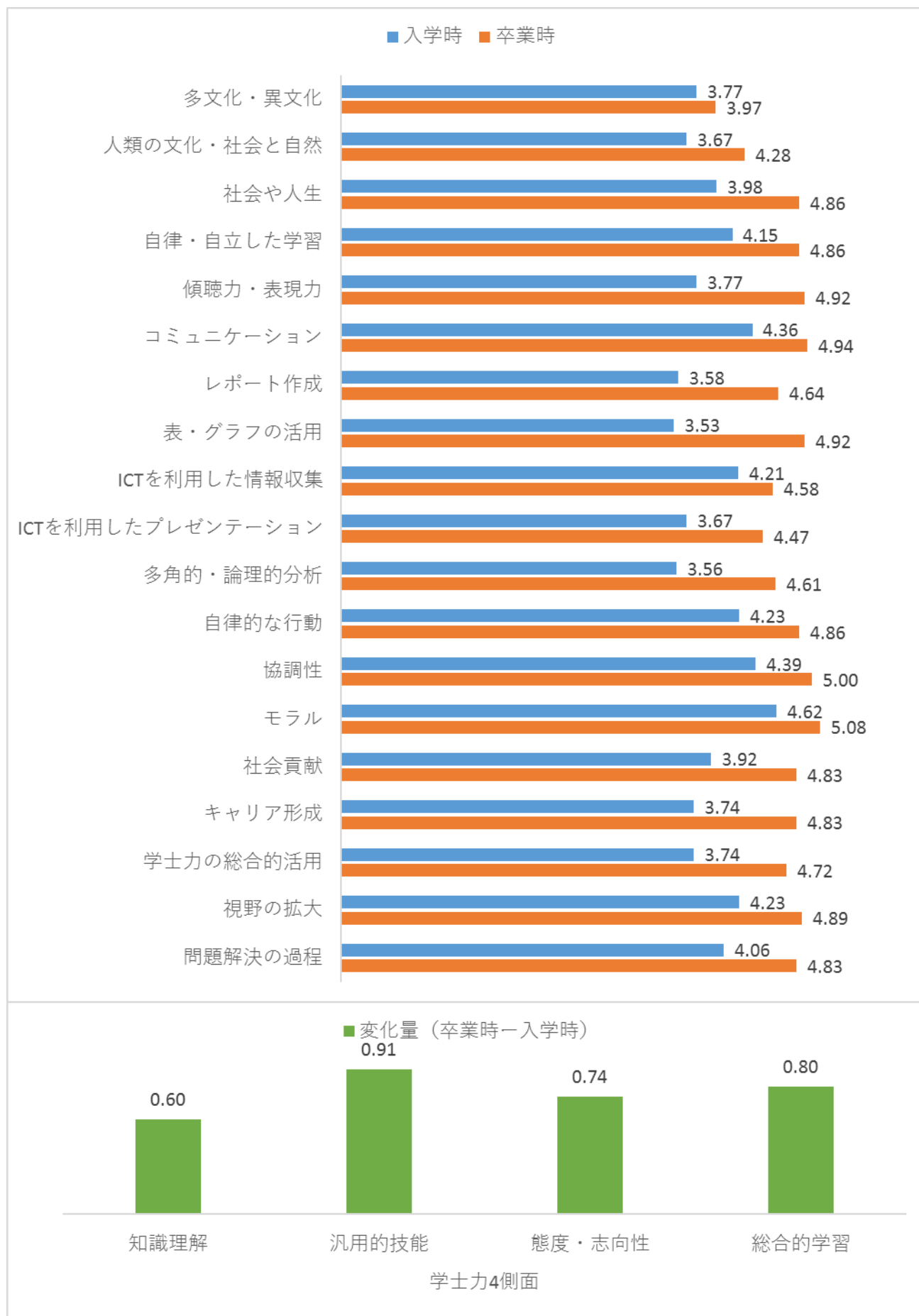
学科別の結果 [福祉心理学科：入学時=103/卒業時=39]



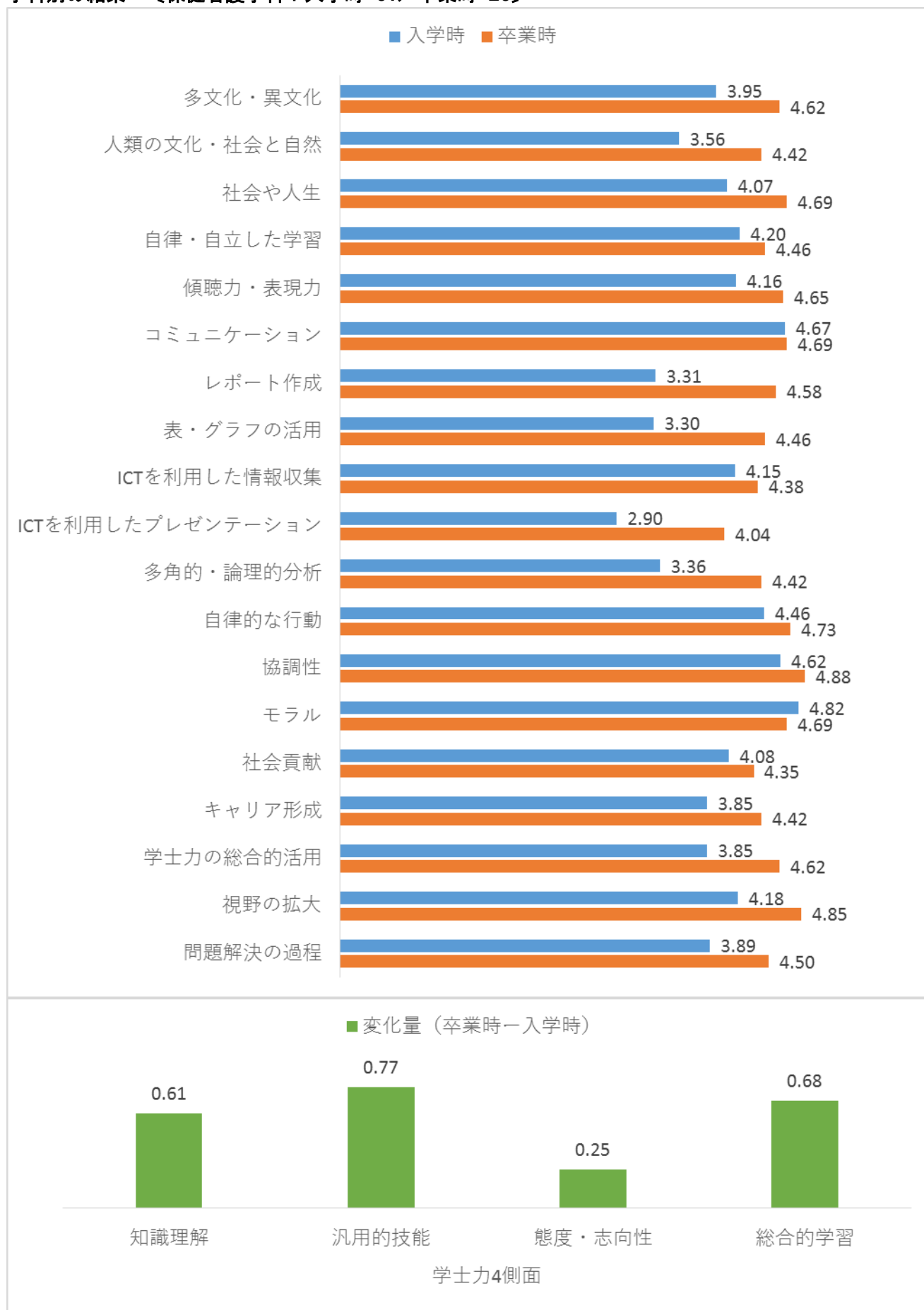
学科別の結果 【社会福祉学科：入学時=383／卒業時=33】



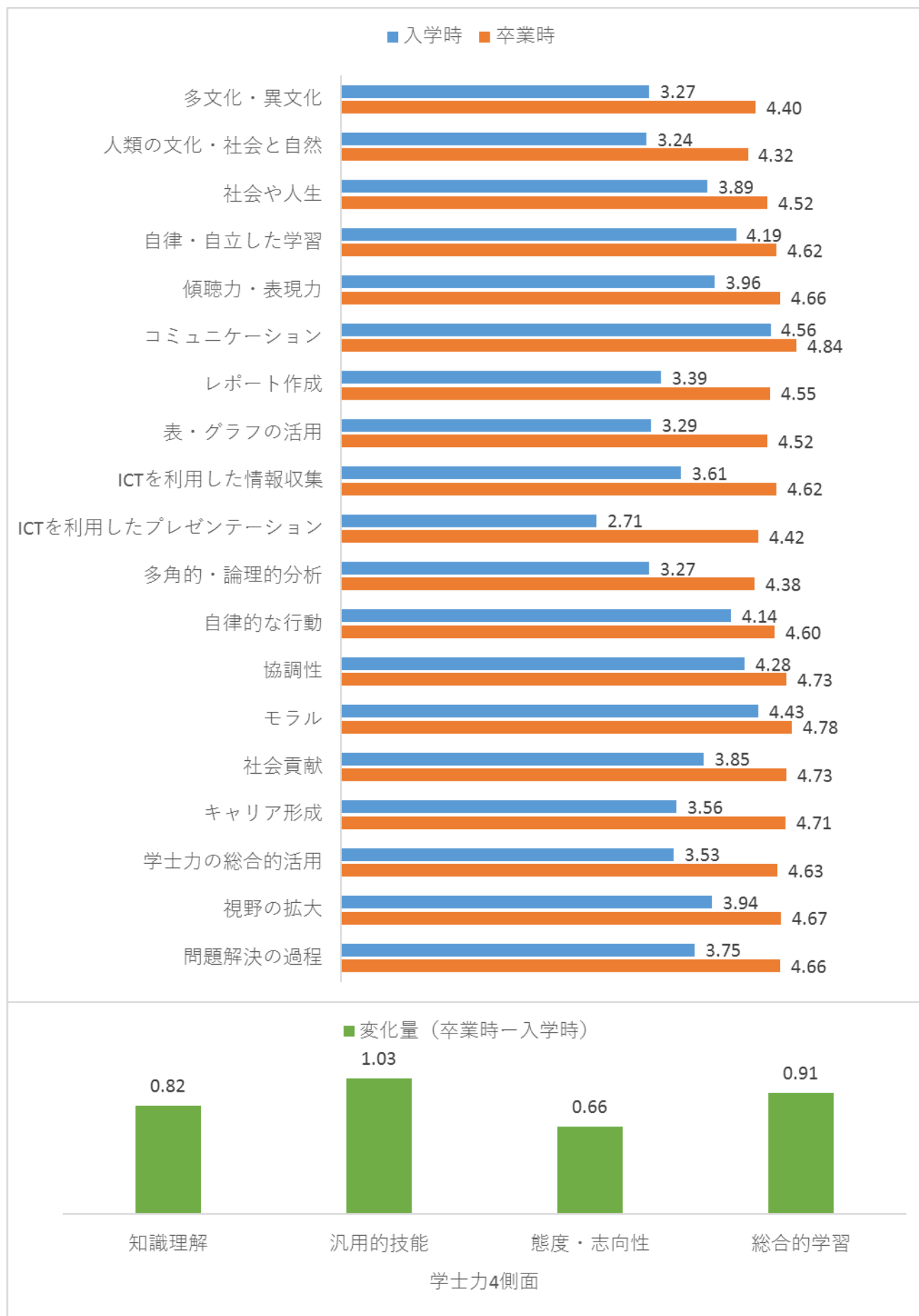
学科別の結果 【医療経営管理学科：入学時=66／卒業時=36】



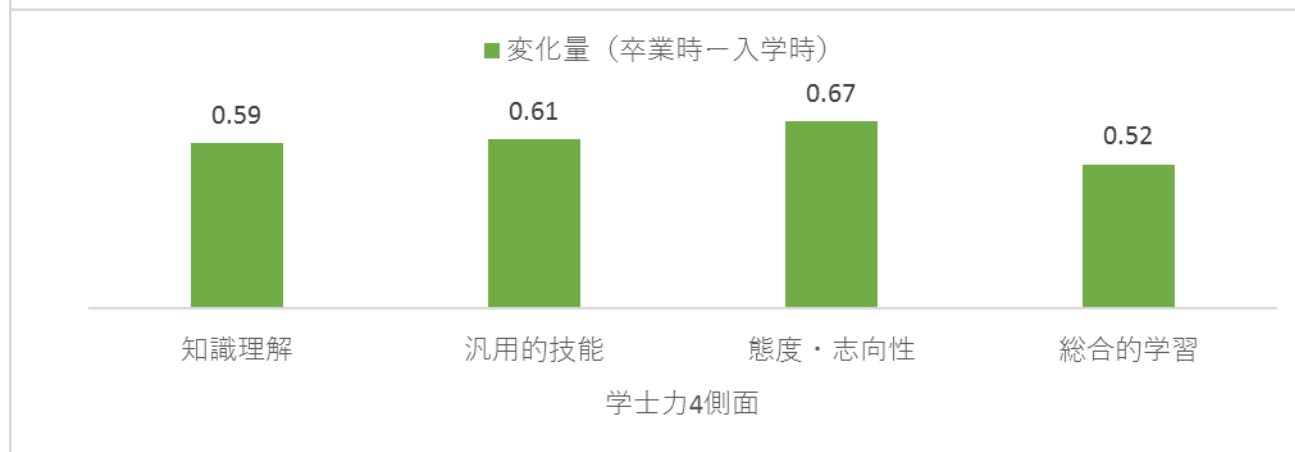
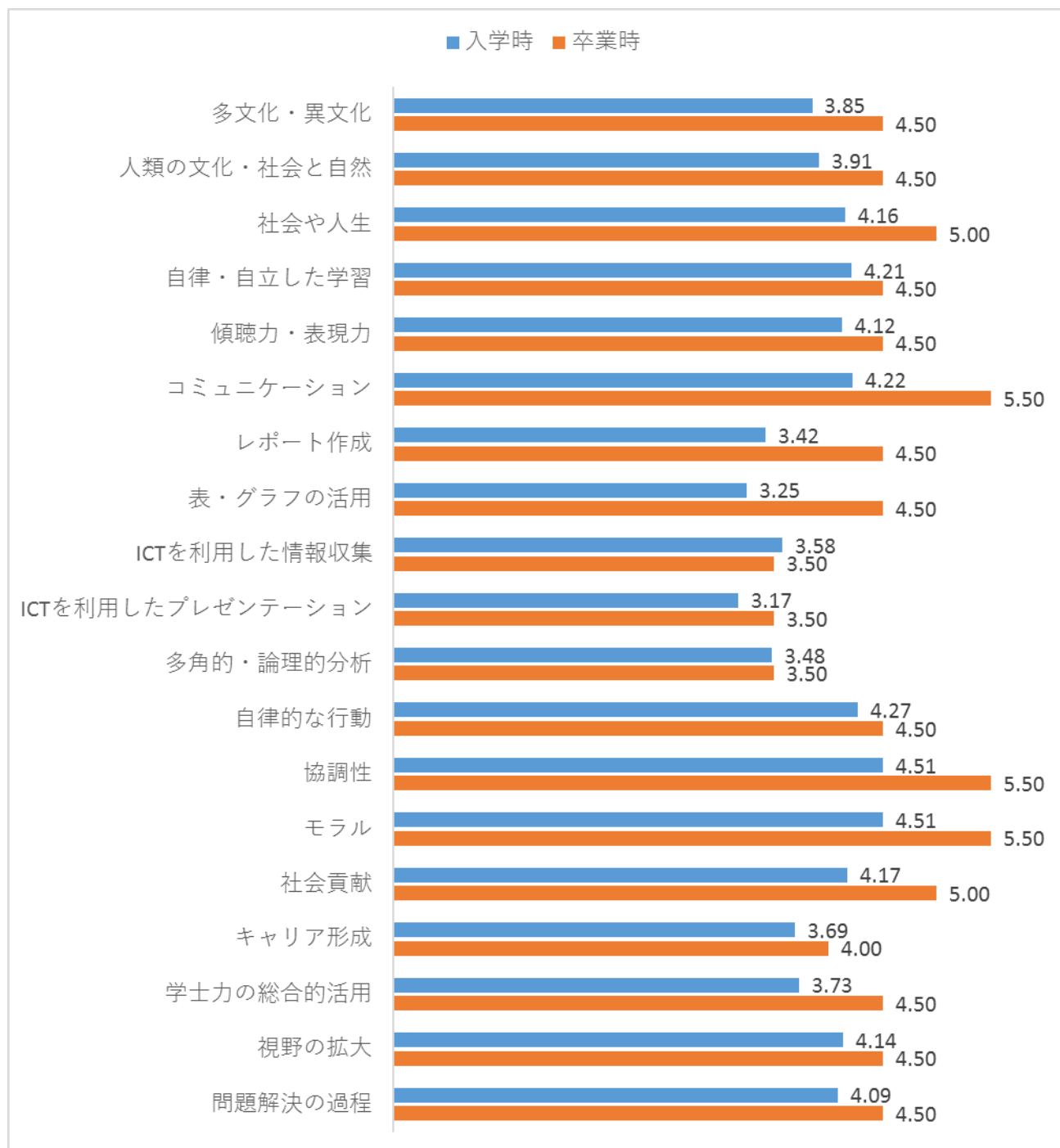
学科別の結果 【保健看護学科：入学時=61／卒業時=26】



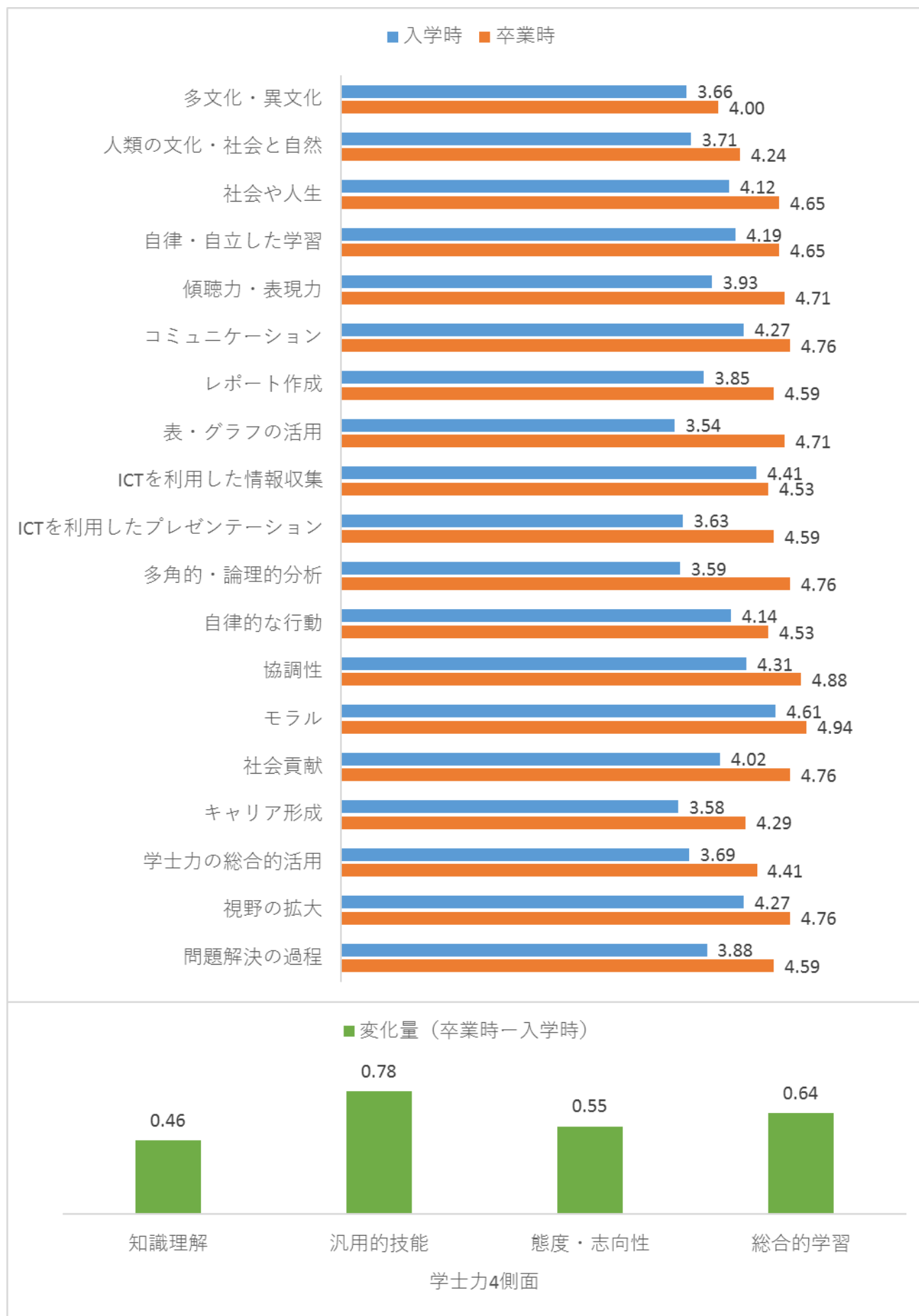
学科別の結果 [リハビリテーション学科：入学時=79/卒業時=73]



学科別の結果 [産業福祉マネジメント学科：入学時=81/卒業時=2]



学科別の結果 [情報福祉マネジメント学科：入学時=59／卒業時=17]



2018 年度 学修成果（学士力）の検証 （3. 全学の学年比較）

FD委員会・IRセンター

調査実施期間 2018年5月1日～2019年1月31

回答者数 2869名

9学科（当該期間中に学修成果の把握を実施した学科）全体を対象に分析を実施した。

学年ごとの回答者数

学年	人数	%
1年入学時	1249	82.6
1年終了時	1176	77.7
2年終了時	344	23.2
3年終了時	287	19.3
4年終了時	319	22.4

*入学時の調査:5月1日～9月6日、1～4年終了時の調査:9月7日～1月31日

*%は各学年の全学生数における割合

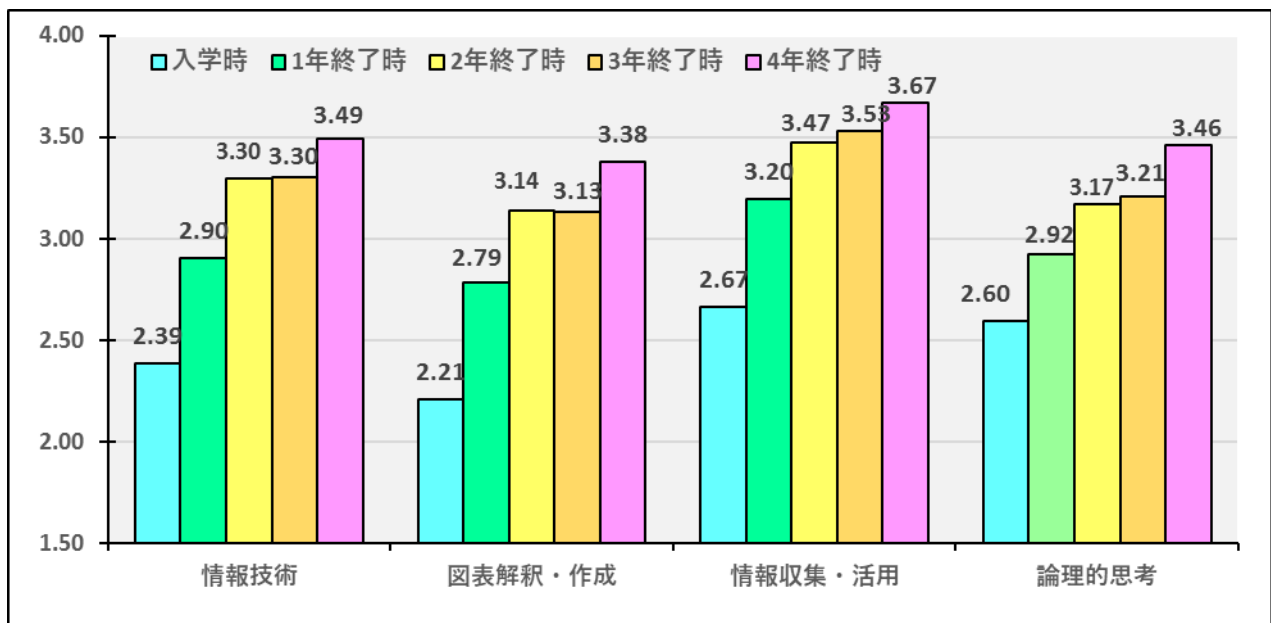
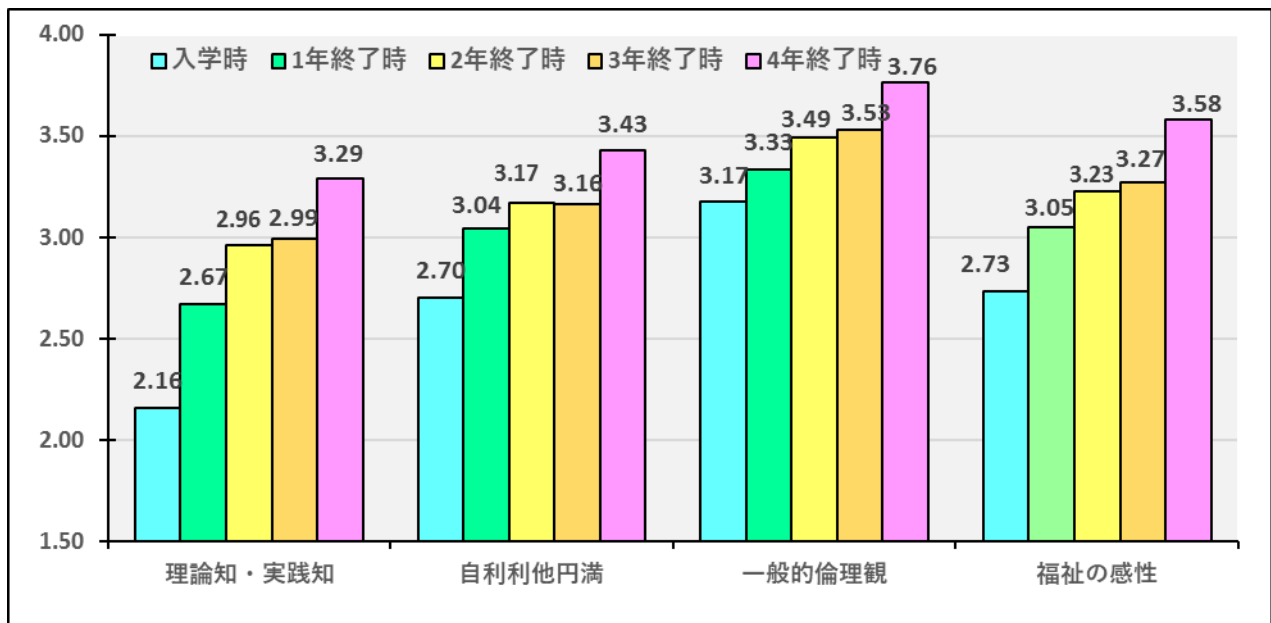
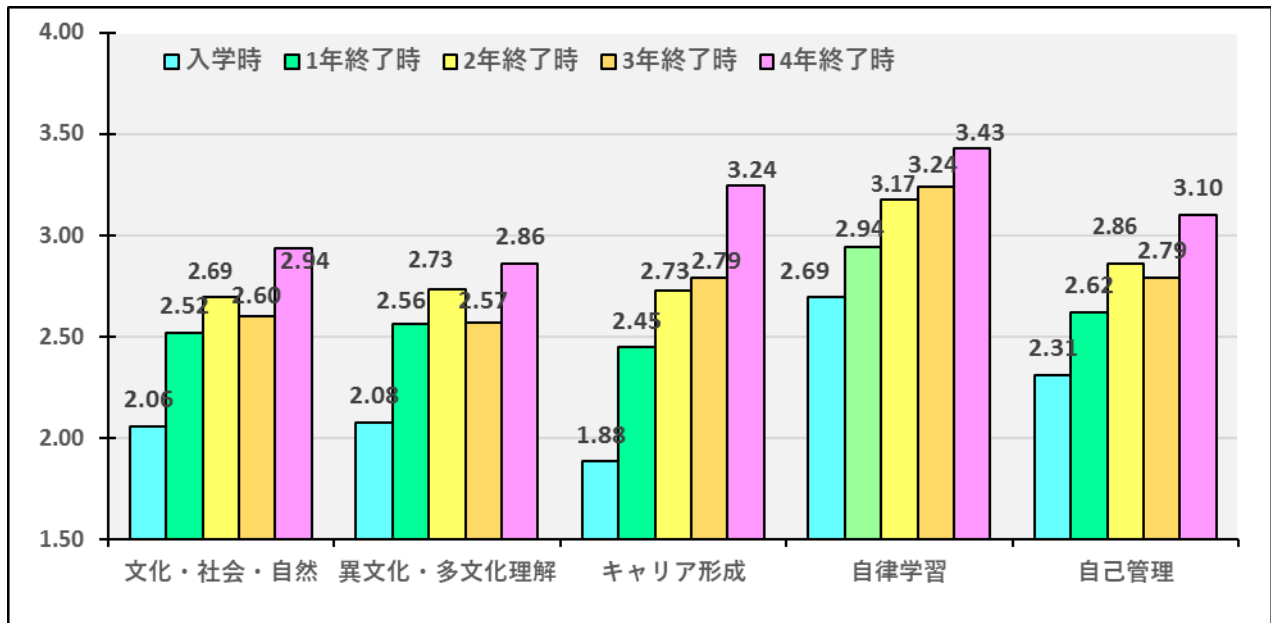
設問

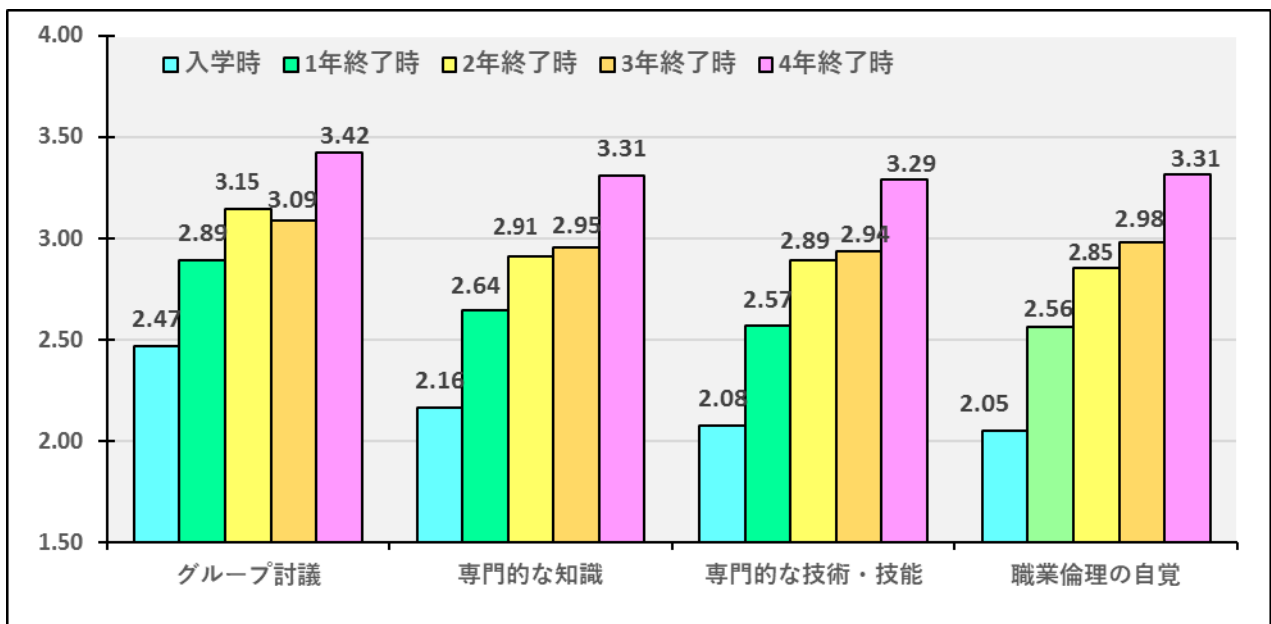
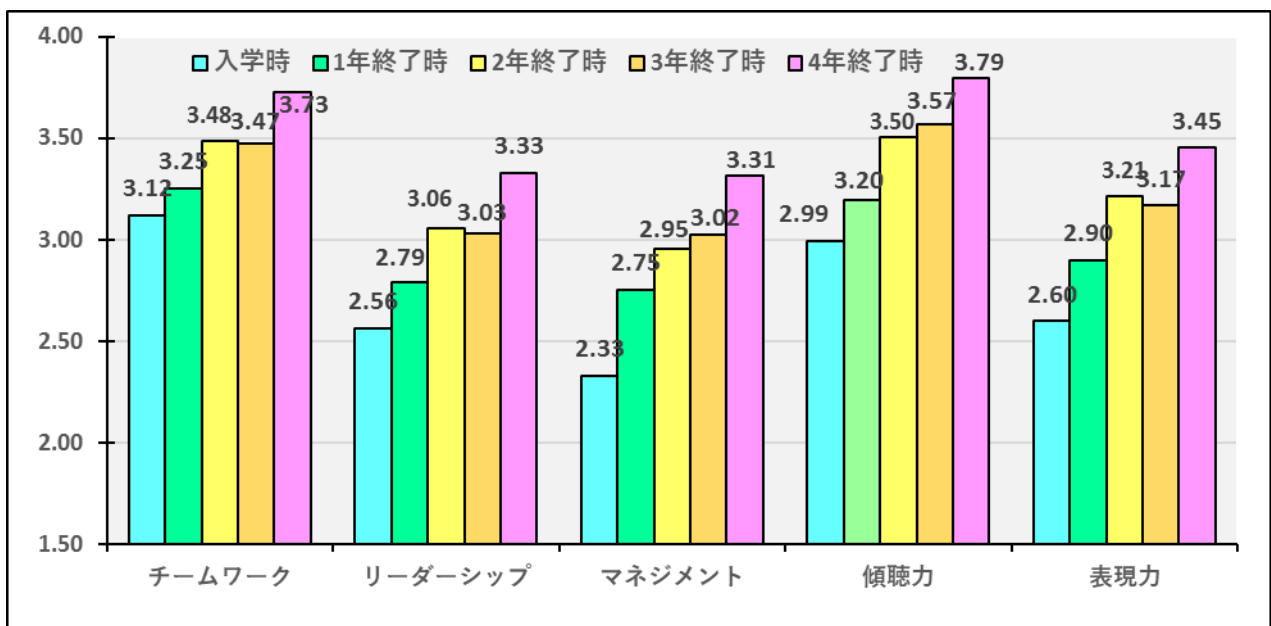
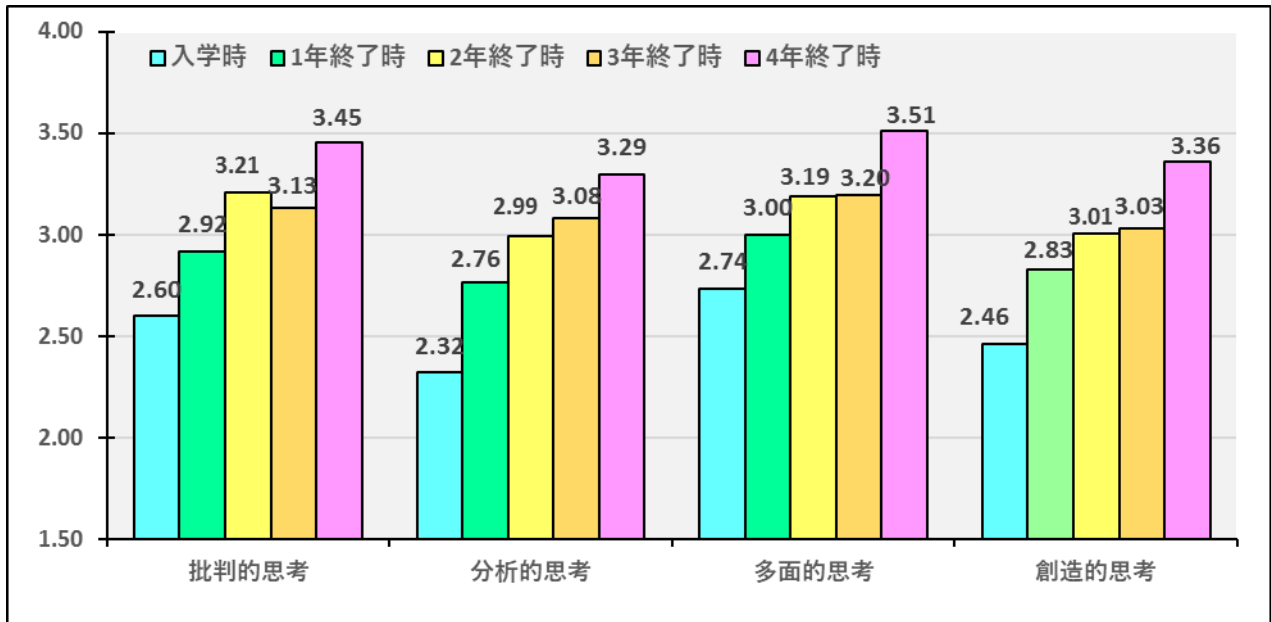
2016年度より、学修成果を測る26項目についての5段階ルーブリック式質問を用いた。詳細は巻末の資料参照のこと。

分析方法

5段階式ルーブリック質問項目に対して、到達度の低い選択肢から順に1点～5点を割り当て、その平均点をもって各設問の得点とした。

全学の推移（入学時－1年終了時－2年終了時－3年終了時－4年終了時）





まとめ

全学的にみると、おおむね 26 の項目において上位の学年に進むにつれて、学修成果の向上に関する主観評定が段階的に高くなっていった。これは 4 年間の中で、一定の教育効果を学生にもたらせていることが考えられる。

1 年終了時点での初年次教育における変化で比較的伸び幅が大きかった項目は、キャリア形成 (+0.56)、理論知・実践知 (+0.51)、情報技術 (+0.52)、図表解釈・作成 (+0.58)、情報収集・活用 (+0.53)、職業倫理の自覚 (+0.51) であった。これらは、本学の学生が入学早期より大学で学ぶために必要な基本的スキルを身につけるとともに、将来のキャリア形成の動機付けにもつながる初年次教育のプログラム効果がうかがえる。一方で、伸び幅が小さかった項目は、チームワーク (+0.14)、一般的倫理観 (+0.16)、傾聴力 (+0.20)、リーダーシップ (+0.22)、自律学習 (+0.25)、多面的思考 (+0.26) であり、倫理観や思考性、コミュニケーション能力、自律した学習活動の遂行など、長期的な視野に立った教育が必要な内容が上がっていることがうかがわれる。

入学時と卒業時を比較しての変化では、平均で約 1 ポイント増加した (ルーブリックの基準が平均でワンランクアップした) 該当項目は以下の 7 項目であった。いずれも職業人として必要不可欠な倫理観や役割、責任などを自覚が促され、専門的な知識、技術等の修得とともに、4 年間での着実なキャリア形成につながる成果が認められた。また、今年度の結果では新たに「理論知と実践知」、「図表解釈・作成」、「情報技術」の該当項目が加わり、基本的なスキルを活用しながら、本学の教育理念である行学一如に基づき知識や技術を自分の行動や経験に応用し、次の学びに役立てるという段階に向上してきているものと判断した。

増加ポイント	項目
1.38	キャリア形成
1.26	専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚
1.21	専門的な技術・技能
1.15	専門的な知識
1.17	図表解釈・作成
1.13	理論知・実践知
1.10	情報技術

これらは専門的な知識や技能を基礎におき、実践的なカリキュラムと多くの行動や経験の機会を通して、専門職あるいは職業倫理をしっかりと身につけている姿として、本学の教育スタイルおよびプロセスをよりよく反映しているものと考えられる。一方、ポイントの増加が少なかった項目は以下のものであり、今後の改善課題となった。

増加ポイント	項目
0.61	チームワーク
0.59	一般的倫理観

資料 学修成果の把握 質問項目

01).人類の文化・社会と自然に関する知識・理解

文化・社会と自然に対して関心がない、またはその知識の獲得・修得に取り組んでいない
上記の知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記の知識についてよく理解しており、その事象の意味について説明できる
上記に加え、その事象が起きた理由について説明ができる
上記に加え、その事象と自分や社会との関連、望ましい姿をとらえることができる

02).異文化・多文化理解

異なる文化やさまざまな文化に関心がない、またはその理解に取り組んでいない
上記の文化の理解に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記の文化について学んで理解しており、異文化・多文化の特徴について説明できる
上記に加え、異文化・多文化の立場の人の考え、気持ち、行動について説明ができる
上記に加え、異文化・多文化の人と相互理解し、適切に接することができる

03).キャリア形成

キャリア形成に関心がない、または取り組んでいない
キャリア形成に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
勤労観・職業観とキャリア関連の知識・能力について理解・修得し、将来を設計できる
実社会での体験による学修に取り組み、実社会で適切に行動できる
将来にわたり社会的・職業的に自立して行動できる

04).自律的学習

大学の授業や与えられた課題について、聞いてもわからない、または取り組んでいない、
大学の授業や与えられた課題について、受け身で取り組んでいる
大学の授業や与えられた課題について、関心をもって取り組むことができる
上記に加え、新たな疑問や問題意識をもって取り組むことができる
上記に加え、自ら調べ、主体的に取り組むことができる

05).自己管理

目標と計画—実行—点検・評価—改善の自己管理に関心がない、または取り組んでいない
上記の自己管理に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
自らマイステップなどを活用して学修場面における自己管理に取り組むことができる
上記に加え、さまざまな場面で応用し、自分自身を向上・成長させることができる
上記に加え、自己管理を社会に出ても役立てることができる

06).行学一如に基づく理論知と実践知の融合

獲得・修得した知識や技能・技術と自分の行動や経験を関連づけて学んでいない
上記の知識や技能を自分の行動や経験に照らし合わせて理解しているが、応用していない
上記の知識や技能を自分の行動や経験に応用し、次の学びに役立てることができる
上記に加え、実際の状況を想定した模擬場面で生かし、次の学びに役立てることができる
上記に加え、実践場面で生かし、次の学びに役立てることができる

07).自利利他円満

身近な他者の幸福のために役立つことに関心がない

身近な他者の幸福のために役立つ大切さは理解している

社会に関心を向け、他者の幸福のために役立ちたいという気持ちをもって行動できる

上記に加えて、何らかの社会貢献や地域貢献を行うことができる

上記に加えて、幅広い場面において率先して継続的な社会貢献活動ができる

08).一般的倫理観

社会のルールや集団でのマナー、礼儀などに関心がない、または取り組んでいない

上記のルール、マナー、礼儀などについて最低限は守ることができる

上記のルール、マナー、礼儀などについて必要な理由や意義を理解して守ることができる

上記に加え、状況（時、人、場合）に応じて他者に配慮して行動することができる

上記に加え、良心に基づき、誠実に社会から信頼される良識ある行動をとることができる

09).福祉（ウェルビーイング）の感性

見えないもの（気持ちや真意、本質など）に関心がない、または感じ取ろうとしていない

上記の見えないものを感じ取ろうとしているが、表面的な理解にとどまることが多い

上記の見えないものを感じ取る感性の大切さを理解し、取り組むことができる

上記に加え、その感性をある程度備え、状況によって気づき感じ取るることができる

上記に加え、その感性を日常生活で活用でき、さらなる感性の練磨に励むことができる

10).情報技術

情報技術（ワープロ・表計算・プレゼンソフト）の操作の修得に取り組んでいない

上記の情報技術の基本的な操作の修得に取り組んでいるが、支援なしにはできない

上記の情報技術の基本的な操作は、限られた範囲の機能については一人で可能である

上記の情報技術の基本的な操作が可能で、与えられた課題に対しては適切に利用できる

上記に加え、応用的な操作が可能で、授業外で幅広く活用でき、初心者にも教えられる

11).図表解釈・作成

得られた情報やデータの適切な整理の仕方や図表の正しい読み取り方に取り組んでいない

得られた情報やデータの整理に取り組んでいるが、支援なしにはできない

得られた情報やデータについて図表やグラフを作成することができる

上記に加え、図表やグラフを分析し、その意味を正しく読み取ることができる

上記に加え、問題点や課題を指摘できる

12).情報収集・活用力

インターネットや図書、雑誌などの情報の適切な収集・活用に取り組んでいない

上記の情報について、限られた情報源を基に、そのまま利用する

上記の情報について、多様な情報源から収集しているが、整理せず、そのまま利用する

上記の収集に加え、大学の授業やレポート課題等に整理・活用できる

上記の収集・活用に加え、さまざまな問題発見・解決に活用できる

13).論理的思考

筋道を立てて思考することに関心がない、または取り組んでいない

単純な事柄についても、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することは苦手である

単純な事柄について、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することができる

上記に加え、複雑な課題でも事実と意見を整理して筋道を立てて思考することができる

上記に加え、事実と意見を整理して筋道を立てて思考することが日常的にできる

14).批判的思考

さまざまな情報や報道、他者の意見や自分の考えをそのまま鵜呑みにしている

上記の情報や考えが偏ったものである可能性に気づいている

上記の情報や考えについて、距離を置いて批判的に吟味・検討することができる

上記に加え、多様な可能性を考えたとうえで、的確に問題点を指摘することができる

上記に加え、現場で状況を見、当事者の認識や気持ちを確かめて判断することができる

15).分析的思考

問題や予想外・例外の出来事についての因果関係の把握について関心がない

上記の因果関係の把握について関心はあるが、説明できるレベルではない

上記の因果関係の把握について理解しており、着目して把握することができる

上記に加え、調査や分析による根拠を示すことができる。

上記に加え、課題を明らかにし、予防や解決のための方向付けを的確に示すことができる

16).多面的思考

さまざまな視点や自分とは異なる見方に関心がない

上記の視点や見方に関心はあるが、一面的な見方で理解している

上記の視点や見方を積極的に受け入れ、取り入れることができる

上記に加え、上記の視点や見方を組み合わせて、問題発見・解決に取り組むことができる

上記に加え、改善や解決を提案し、実際の行動に活用できる

17).創造的思考

新しい考えや価値を見出すことに関心がない

新しい考えや価値を見出す仕方に関心はあるが、説明できるレベルではない

新しい考えや価値を見出す仕方を理解している

上記に加え、新しい考えや価値を生み出すことができる

上記に加え、新しい考えや価値を活用して提案や行動をすることができる

18).チームワーク

他者との協調・協働（目標と問題の共有、役割とルールの認識など）に関心がない

上記の協調・協働について関心はあるが、説明できるレベルではない

上記の協調・協働を行うことができるが、受け身である

上記の協調・協働を自ら創意工夫して行い、目標の実現に積極的に貢献することができる

上記に加えて、リーダーが動きやすいように手助けし、協力することができる

19).リーダーシップ

リーダーとしての役割（方向付け、役割とルール、モチベーションなど）に関心がない
上記のリーダーとしての役割について関心はあるが、説明できるレベルではない
上記のリーダーとしての役割を理解し、真摯に目標の実現に取り組むことができる
上記に加え、メンバーの気持ちに配慮し（感謝や励ましなど）、状況に応じて対応できる
上記に加え、困難な状況や危機的状況にも対応することができる

20).マネジメント

企画と創造（欲求の理解、企画、体制作り、周囲の協力、新たな価値など）に関心がない
上記の企画と創造について関心はあるが、説明できるレベルではない
上記の企画と創造について理解し、取り組むことができる
上記に加え、経験のない課題でも事前に起こりうる問題も想定して取り組むことができる
上記に加え、挑戦的な課題でも明確な目標と現実的計画を設定して取り組むことができる

21).傾聴力

適切な傾聴（他者の話を聴くこと）に関心がない、または取り組んでいない
上記の傾聴に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
他者の話を尊重してよく聴きくことができる
上記に加え、質問などによって相手の関心や欲求を把握することができる
上記に加え、相手の様子から相手の気持ちを理解することができる

22).表現力

適切な表現（自分の考えを伝えること）に関心がない、または取り組んでいない
上記の表現に取り組んでいるが、その仕方を説明できるレベルではない
自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる
上記に加え、聞き手の関心や欲求に応じて自分の考えを伝えることができる
上記に加え、聞き手の気持ちに配慮して自分の考えを伝えることができる

23).グループ討議

グループ討議（役割、意見促進、まとめなど）に関心がない、または取り組んでいない
上記のグループ討議に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記のグループ討議では、適切な手順・手段にそって話し合いを行うことができる
上記に加え、グループの中での意見を正確かつ的確に要約できる
上記に加え、今までになかった新しいアイデアの発想へとつなげることができる

24).専門的な知識

専門的な知識に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない
上記の知識の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記の知識について、基本は理解しており、説明できる
上記に加え、応用的な課題について上記の知識を用いて説明できる
上記に加え、実社会での実践に役立てることができる

25). 専門的な技術・技能

専門的な技能・技術に関心がない、またはその獲得・修得に取り組んでいない
上記の技能・技術の獲得・修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記の技能・技術について、基本は理解しており、説明できる
上記に加え、実際場面における上記の技能・技術の活用の仕方を説明できる
上記に加え、実社会での実践に役立てることができる

26). 専門職業人としての役割と責任と職業倫理の自覚

専門職業人の役割と責任と職業倫理に関心がない、またはその修得に取り組んでいない
上記の役割と責任と職業倫理の修得に取り組んでいるが、説明できるレベルではない
上記の役割と責任と職業倫理について、基本を理解しており、説明できる
上記に加え、実際場面における上記の役割と責任と職業倫理に基づく行動を説明できる
上記に加え、実社会での実践に役立てることができる